

平成23年 6月20日現在

研究種目：若手研究（B）  
 研究期間：2007～2010  
 課題番号：19720053  
 研究課題名（和文）  
 中世王朝物語の引用和歌典拠総覧作成とテキスト処理による物語内引歌表現検索の研究  
 研究課題名（英文） A Study on finding the quotes in the pseudo classical *Monogatari* works written in the medieval ages  
 研究代表者  
 安道 百合子（ANDO YURIKO）  
 梅光学院大学・文学部・准教授  
 研究者番号：00441577

研究成果の概要（和文）：中世王朝物語の創作基盤を明らかにするための調査ならびに新たな研究方法の開発・紹介を行った。創作基盤とは、前時代・同時代において物語創作に影響を与えた文学作品のすべてである。具体的には、作中和歌の他出状況、本歌、参考歌の調査・掲出を行った。また、コンピュータを使った引歌表現の検索方法を模索した結果、連続する文字列の一致度を測る方法が有効であることを確認し、プログラムの開発・紹介を行った。

研究成果の概要（英文）：In order to clarify the basis of pseudo classical “monogatari” in the Medieval Ages, I developed a new research program. The basis includes all literary works which had an influence on writing “monogatari” in the previous and the same ages. The topics I dealt here are as follows: how the waka poems concerned appear in the poems in other literary works, especially in “monogatari,” the original poems, and the quoted poems. I tried to find a way of searching for the quoted expressions with a computer. As a result, it was proved effective to measure to what degree the character strings in the waka poems concerned coincide with those in other ones. Based on the findings, I developed a new research program.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	2,600,000	0	2,600,000
2008年度	200,000	60,000	260,000
2009年度	200,000	60,000	260,000
2010年度	400,000	120,000	520,000
年度			
計	3,400,000	240,000	3,640,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：中世王朝物語・コンピュータ国文学・引歌・検索

## 1. 研究開始当初の背景

（1）『源氏物語』を中心とする王朝物語の研究は、古くからの伝統があるが、その流れにあって、「中世王朝物語」の研究は、研究

史が浅い。活字テキストがそろったのが、『鎌倉時代物語集成』（市古貞次・三角洋一編 笠間書院 1988年刊行開始）全七巻の刊行が終わった2001年である。また、校訂本文と解

釈に関わる注ならびに現代語訳を付した『中世王朝物語全集』（笠間書院）は、本研究開始当初、刊行途上であり、現在もまだ全巻の刊行はなされていない。いわば、基礎研究が個別の作品単位で続いている状況であり、その状況は、いま現在もあまり変わっていない。

（２）研究代表者は、大学院在学中に、中世王朝物語のなかでも最も成立の下る『夢の通ひ路物語』を対象として、先行作品の影響を詳細に調査し、それらを「創作基盤」と呼ぶことで、単なる典拠探しではなく、作者の教養や創作意図を、製作された同時代に位置付けて考察した。「中世王朝物語」全作品を対象とし、その文学的価値を、中世という時代に位置付けて論じるためには、網羅的な典拠調査が必須である。それらは十分には行われていない状況であった。

（３）引歌表現の指摘など、基礎研究の方法は、研究者の勘に頼るところが大きかった。本文のデータベース化や、全文検索の手法の開示ならびに実用化は、個別の研究者によって、進められつつあったが、テキスト処理の手法を援用した典拠調査の方法は、ほぼ手つかずの状況だった。

## 2. 研究の目的

（１）『鎌倉時代物語集成』に含まれる中世王朝物語の作品すべてにおける、作中和歌の他出状況および本歌・参考歌の調査・掲出を行うとともに、引歌の典拠の網羅的調査・掲出を行うことにより、中世王朝物語各作品の創作基盤を明らかにすることを目的とする。創作基盤とは、前時代・同時代において物語創作に影響を与えた文学作品のすべてであり、これにより、中世における物語創作の状況や作者層の検討にいたる手がかりを得ることが期待できる。

（２）典拠調査にあたっては、もっとも古い「原典」にこだわらず、同時代に広く流布した類題和歌集や古注釈の営みを視野に入れ、引用和歌典拠総覧を作成する。

（３）物語における引歌表現の有効な検索方法を模索し、テキスト処理の方法を用いた検索プログラムの開発を目指す。

## 3. 研究の方法

（１）基本的に研究は一人で行った。基礎データの入力ならびにデータ整理には、業者や学生アルバイトの雇用により進めた場合がある。

（２）『鎌倉時代物語集成』（笠間書院）第一巻～第七巻に収められる中世王朝物語の作

品本文をすべて入力してテキストデータとした。これを基礎的な作品データとした。

（３）作中和歌については、データを仮名に標準化し、さらに各句区切りのデータを作成した。そのデータと、新編国歌大観所収の和歌（約４０万首）データとを文字列比較の方法によって比較し、類似歌を抽出した。そのなかから、本歌の認定・参考和歌の選定と認定を行い、それらの和歌の典拠調査を行う。なお、和歌比較方法には、連続する２音を一つの単位として、一致の度合いを測る方法を用いた。

（４）物語本文については、漢字の頻度、仮名遣いの不一致の頻度を見極め、テキストデータのある程度、標準化した。頻度を見極めや、漢字辞書の作成、仮名の置き換えなどは、研究代表者本人が、プログラム処理を施した。

（５）本文データと新編国歌大観所収和歌との比較や、本文データと『源氏物語』『狭衣物語』などの先行作品データとの比較を行った。比較方法を変えて、引歌表現や物語取り表現の検索に適した抽出方法を模索した。比較の際には、本文から網羅的に取り出した短文データを使った。方法は、基本的に、連続する文字列の一致度を測る方法である。連続する文字数や一致の度合いなどを変えて、繰り返し実験し、有効な比較方法を見定めた。

## 4. 研究成果

（１）作中和歌の本歌・参考歌典拠総覧作成について

①作中和歌の類歌抽出を行った結果、コンピュータによる抽出結果は、従来の基礎研究に比べて、和歌の時代性や傾向をとらえるのに有効であることがわかった。

②基礎調査を行う際の思い込みを排除できることや、典拠一覧を作成できることにも利点がある。

③個別の作品ごとに成果を開示しつつある。従来の成果と並べて、本研究の方法の意義を述べることがまず必要であり、その次に、作品自体の文学的価値を論じることが必要である。開示方法は、作品個々に行うべきものと、ある作品群をまとめて行うべきものがあり、現在、順次、成果公開をしている。

（２）テキスト処理による引歌表現検索の研究について

①『あきぎり』などを例として、具体的に、有効な抽出方法を見定めた。

②物語本文をある程度標準化すると、連続する３音を一つの単位として音数一致を測る方法で、引歌表現を検索できる場合があ

る。ただし、一句もしくは5音～7音程度の語句引用の場合は、この方法では不可能で、先行する物語本文との比較結果を組み合わせた場合に有効であることがわかった。

③物語相互比較の方法を組み合わせると、引歌を手がかりにして、物語相互の影響関係に踏み込める可能性があることがわかった。

④引歌表現検索の有効な方法を、論文で開示した。また、プログラムの紹介を、著書・論文などで行った。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ① 安道百合子、中世物語『あきぎり』の引歌表現—コンピュータによる文字列一致検索の結果をふまえて—、梅光学院大学論集、査読有、第44号、2011、p49-62
- ② 安道百合子、『首書源氏物語』桐壺巻頭注の翻刻と小考察(下)—「或抄」の性格に関して—、日本文学研究、査読有、第46号、2011、p14-27
- ③ 安道百合子、コンピュータは引用表現を探せるか—中世物語『あきぎり』における類歌検索および引用表現検索の試みを通して—、梅光学院大学論集、査読有、第43号、2010、p32-42
- ④ 安道百合子、『首書源氏物語』桐壺巻頭注の翻刻と小考察(上)—「或抄」の性格に関して—、日本文学研究、査読有、第45号、2010、p24-38
- ⑤ 安道百合子、『小夜衣』の和歌表現—2音1因子方式による類歌抽出結果の検討を通して—、梅光学院大学論集、査読有、第41号、2008、p67-77

[学会発表] (計3件)

- ① 安道百合子、『源氏』以後の物語—中世王朝物語の創作基盤をさぐる—、韓国日本語学会、2011年2月19日、韓国嶺南大学
- ② 安道百合子、コンピュータは引歌表現を探せるか—『あきぎり』の場合—、広島国語国文学会、2009年11月22日、広島大学
- ③ 安道百合子、『首書源氏物語』桐壺巻における先行註釈の引用態度について—梅光本源氏物語書き入れ注を視野に入れつつ—、梅光学院大学日本文学会、2009年7月11日、梅光学院大学

[図書] (計1件)

- ① 中村康夫、安道百合子、和泉書院、文系のための情報処理入門—パソコンを活用して研究を進めよう—、2008、総ページ数99頁(全体にわたって執筆)

[その他]  
ホームページ等  
なし

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

安道 百合子 (ANDO YURIKO)  
梅光学院大学・文学部・准教授  
研究者番号：00441577

### (2) 研究分担者

なし

### (3) 連携研究者

なし